秘煙千歳阿寒岳 碧水万年明鏡洋

悲恋夷姫投古底 艷麗未結乏芬香

想君一念生毬藻 尽愛慕情籠玉妝

晴日漂身求眷影 哀哀唱韻訴湖塘

荒天沈枕愁離別 切切悲歌啾隻鶯

嗟是誰知純愛節 唯嘆俗客戲靈裳

悲恋毬藻の歌（佐々木岳甫）

秘煙 千歳 阿寒の 岳

碧水 万年 明鏡の 洋

悲恋の 夷姫 古底に 投ず

艷麗 未だ 結ばざるに 芳香も 乏し

君を 思う 一念 毬藻と 生り

愛し 尽くす 慕情 玉妝に 寵る

歌 水面をわたる風さみし

阿寒の山の湖に

浮かぶマリモよなに思う

マリモよマリモ緑のマリモ

晴日 身を漂わして 眷影を 求め

哀哀たる 唱韻 湖塘に 訴う

荒天 枕に 沈みて 離別を 愁み

切々たる 悲歌 隻鶯に 啾く

短歌 わが恋は阿寒の湖の水底の

毬藻となりて永久に悲しも

嗟 是れ 誰か 知る 純愛の 節

惟 嘆く 俗客の 靈裳に 戯むるを

解説 阿寒湖の毬藻伝説を詠った詩。

語釈 ※毬藻Ⅱ淡水性の緑藻の一種。 ※秘煙Ⅱ神秘的な煙。 靄。 ※千歳Ⅱ長い年月。 ※碧水Ⅱ青色の深い水。 ※阿寒Ⅱ釧路市にある湖で特別天然記念物のマリモや、ベニザケの湖沼残留型であるヒメマスが生息する。 ※明鏡Ⅱ曇りのない鏡。 ※夷姫Ⅱピリカメノコ、アイヌの酋長の娘。 ※艷麗Ⅱ人妻としてつややか。 ※芬香Ⅱ乙女のおおい。 ※玉妝Ⅱ玉の装い。 ※眷影Ⅱ赤心人や家族の面影。 ※唱韻Ⅱ歌声のひびき。 ※湖塘Ⅱ湖のつつみ。 ※荒天Ⅱ荒れた天候。 ※隻鶯Ⅱひとり身のおしどり。 ※俗客Ⅱ※靈裳Ⅱ霊のこもった衣裳。

通釈 神秘的な煙に包まれた阿寒の山々。その裾野に、透き通るほどの真青な水をたたえた阿寒湖がある。この湖には、昔、アイヌの酋長の娘が、かなわぬ恋に絶望して身を投げたという悲しい言い伝えがある。恋い慕う人と結ばれることなく湖底に消えた乙女の純愛はなんとも不憫でならない。その後、湖に濃い緑色をした丸い藻が生まれ、人の目にとまるようになった。晴れた日にはそれが湖面に現われ、まるで恋人の姿を探しているかのように岸辺を眺めている。辺りには哀調おびたふしが聞こえるとさえいわれる。また風雨の日には、水底に沈んでつらい別れを嘆き悲しみ、切々と歌うのである。阿寒にこの身を投げて悲しい恋は終わらない。私はついに毬藻に姿を変えて、はてない涙を流す。毬藻にこのような悲しい伝説があることを、一体、誰も知らないというのだろうか。阿寒を訪れる心ない旅行者がいたずらに毬藻を持ち帰ったりするとは誠に嘆かわしい限りである。